平成２７年度事業報告書

地方創生交付金による機器整備

第２回水引コンテスト受賞作品　最優秀賞　３作品

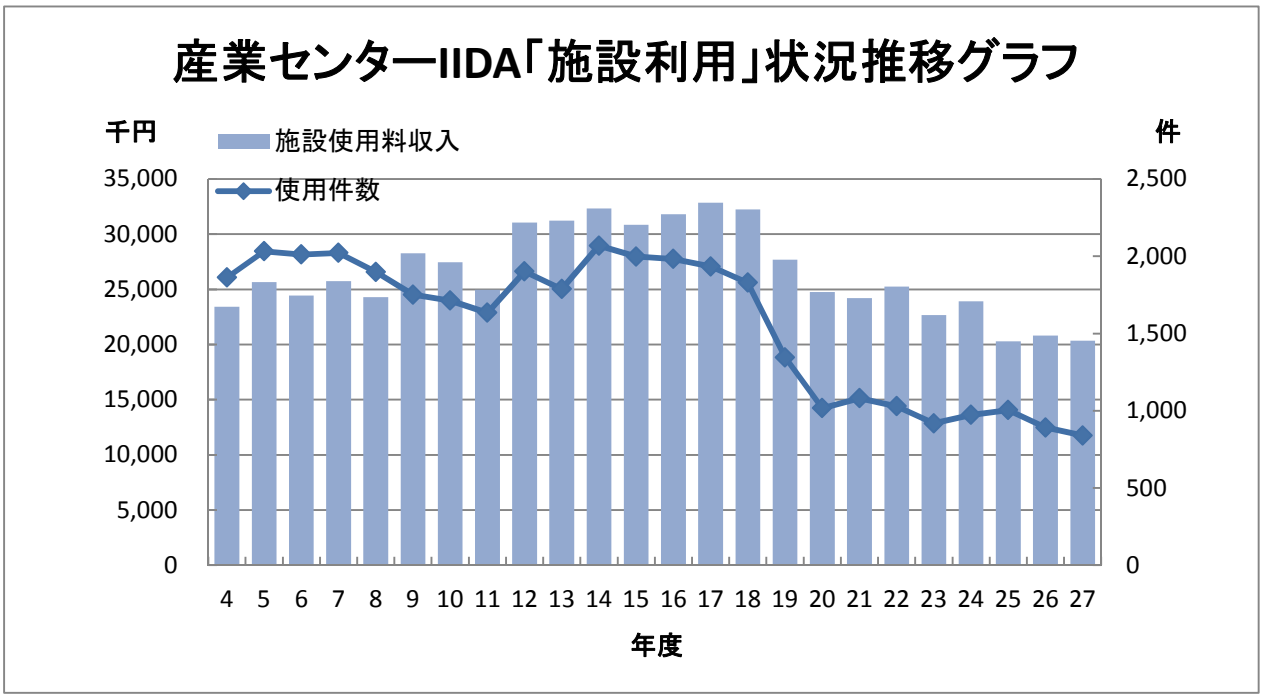
公益財団法人　南信州・飯田産業センター

Ⅱ　事 業 概 要

１．施設利用事業

（１）「産業センターＩＩＤＡ」貸館事業

貸館事業は、前年度と比べて入場者数は増加したものの、使用件数は 5.7%減少となりました。施設は、建築後 32 年が経過し、施設、設備、備品の老朽化に伴う修繕も発生しており、施設維持費の増額が今後懸念されるとともに、現在の利用料金、貸出時間の設定についても利用者のさらなる利便性向上と利用率アップのためにも見直しが必要となっています。



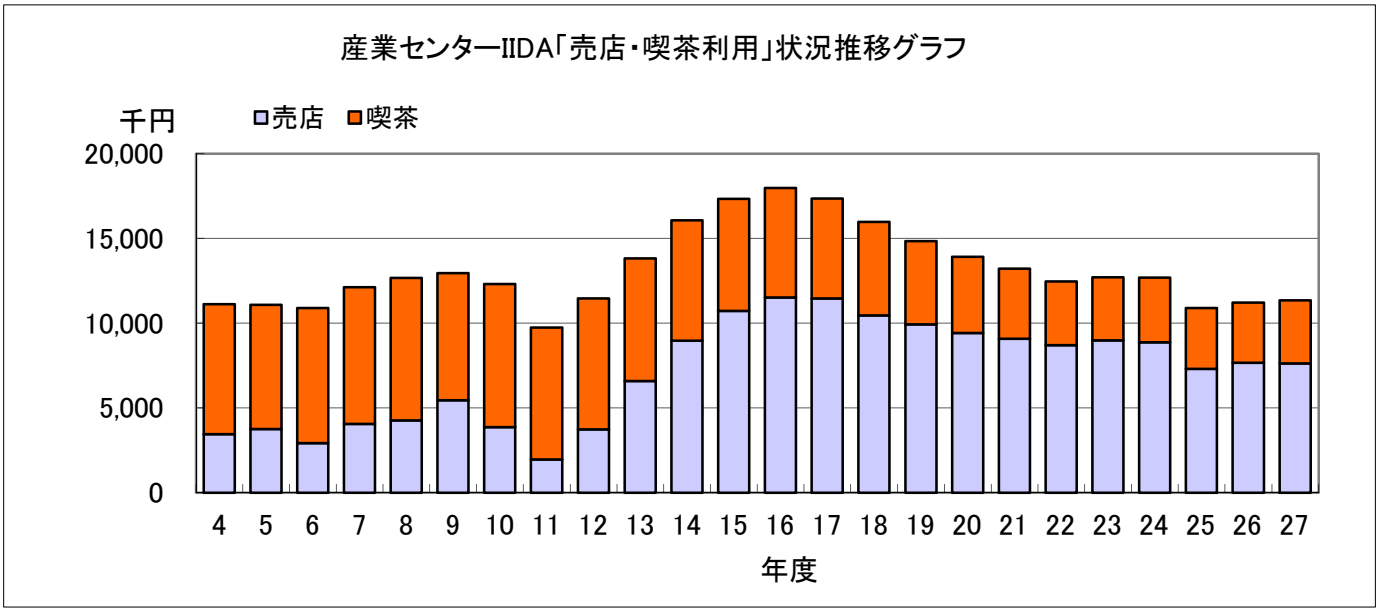
施設利用年度別利用状況の推移

年度	使用件数	入場者数	施設使用料収入(円)	年度	使用件数	入場者数	施設使用料収入(円)
4	1, 862	130, 967	23, 428, 761	16	1, 982	68, 225	31, 805, 844
5	2, 032	103, 329	25, 663, 835	17	1, 934	67, 407	32, 838, 760
6	2, 011	128, 214	24, 441, 005	18	1, 829	68, 632	32, 234, 160
7	2, 022	116, 997	25, 746, 139	19	1, 345	46, 683	27, 686, 966
8	1, 898	102, 995	24, 299, 752	20	1, 017	45, 355	24, 760, 105
9	1, 751	74, 269	28, 266, 485	21	1, 081	38, 948	24, 205, 033
10	1, 713	72, 886	27, 458, 192	22	1, 029	44, 079	25, 236, 284
11	1, 634	71, 848	24, 965, 758	23	918	45, 960	22, 680, 332
12	1, 901	80, 859	31, 052, 707	24	973	47, 511	23, 918, 876
13	1, 788	73, 223	31, 216, 362	25	1, 004	46, 739	20, 298, 108
14	2, 068	73, 990	32, 317, 377	26	891	46, 816	20, 806, 792
15	1, 998	73, 092	30, 852, 900	27	840	47, 603	20, 336, 495

（２）売店・喫茶・展示室事業

平成 27 年度は、前年比 1.2%売り上げ額が増加しました。年４回定期的な催事の開催したことによる施設利用実人員の増加と、地域ブランドを意識した品揃えの工夫が主な要因と考えられます。今後も、定期的な催事を開催するとともに、地元製品の品揃えの充実や宣伝の工夫などによりさらなる集客を図っていきます。

展示につきましては、伝統産業に新たな感覚を加味した作品の展示や、進学・就職を前にした高校生の見学などを行うとともに、引き続き地域産業の情報発信機能として常設展示を行いました。地域産業を知る機会を提供する場所として、機能の充実を模索します。



売店・喫茶年度別利用状況の推移

年度	売店	喫茶	合計(円)	年度	売店	喫茶	合計(円)
4	3, 455, 305	7, 663, 620	11, 118, 925	16	11, 506, 225	6, 471, 476	17, 977, 701
5	3, 742, 895	7, 328, 064	11, 070, 959	17	11, 453, 982	5, 890, 438	17, 344, 420
6	2, 924, 735	7, 969, 072	10, 893, 807	18	10, 446, 672	5, 532, 643	15, 979, 315
7	4, 055, 981	8, 062, 191	12, 118, 172	19	9, 924, 580	4, 907, 551	14, 832, 131
8	4, 258, 950	8, 414, 452	12, 673, 402	20	9, 414, 192	4, 489, 200	13, 903, 392
9	5, 456, 515	7, 498, 621	12, 955, 136	21	9, 075, 368	4, 136, 165	13, 211, 533
10	3, 867, 001	8, 443, 445	12, 310, 446	22	8, 707, 724	3, 758, 240	12, 465, 964
11	1, 948, 684	7, 796, 392	9, 745, 076	23	8, 991, 046	3, 719, 070	12, 710, 116
12	3, 727, 830	7, 732, 047	11, 459, 877	24	8, 871, 399	3, 821, 550	12, 692, 949
13	6, 591, 516	7, 219, 090	13, 810, 606	25	7, 299, 287	3, 403, 080	10, 702, 367
14	8, 960, 376	7, 113, 263	16, 073, 639	26	7, 660, 763	3, 544, 210	11, 204, 973
15	10, 726, 588	6, 604, 289	17, 330, 877	27	7, 625, 009	3, 718, 980	11, 343, 989

２．産業振興事業

地域内製造業者等がブランド力の向上と企業間の協力体制を築くことで、付加価値の高い商品を生み出し、企業の安定的な成長を目指して、分野ごとの事業を推進しました。

（１）研究開発支援

飯田市環境技術開発センターの入居企業やその他の企業からの開発案件について、インキュベート委員会を開催し評価を行ってきました。その中で、技術的なアドバイス等が必要な場合には、共同研究の形で工業技術センターが支援しました。

（２）新製品開発支援事業

「ものづくり製品（試作）開発等支援補助金」を交付した、新技術・新商品開発等を行った企業に対してフォローアップを行い、事業効果を継続調査しました。

（３）需要開拓事業

①販売促進事業（主催・共催事業）

・南信州売ってみまいか市（桜のお菓子フェア）

期日：４月３日（金）～４日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店

出展：13 団体

・産業センター春まつり

信州皮革産業連合LICS、半生菓子業者、味噌業者等と連携し春まつりを開催し、多彩な地場産品の販売を行いました。

期日：４月４日（土）～５日（日）　会場：南信州・飯田産業センター

出展：15 団体

・南信州半生菓子フェア

期日：６月 26 日（金）～27 日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店

出展：８団体

・親子わくわく体験教室夏祭り

期日：８月１日（土）　会場：南信州・飯田産業センター

夏休みの一研究をテーマに、夏目光学㈱、南信州おもしろ科学工房と連携したボールレンズづくりと電子顕微鏡の世界、得月と連携した夏の和菓子づくり、飯田水引協同組合と連携した飯田水引絵画コース開催し、90 名の親子に地場産業・企業等を、体験を通じＰＲしました。

・南信州漬物＆こうや豆腐フェア

南信州「吉鍋（よしなべ）」を新たなご当地鍋として地域に定着させ、伝統食材の需要拡大をめざし、南信州「吉鍋（よしなべ）」研究会を発足しました。

期日：９月 25 日（金）～26 日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店

出展：２団体

・食の縁結び！南信州うまいもの商談会　～南信州　山の恵み～

期日：10 月 15 日（木）　会場：南信州・飯田産業センター

出展：46 団体

・南信州売ってみまいか市（ご当地グルメ弁当フェア）

期日：11 月 13 日（金）～14 日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店

出展：10 団体

・あったかもり高森祭
期日：12 月５日（土）～６日（日）　会場：アピタ高森店
吉鍋（よしなべ）400 食提供
・南信州売ってみまいか市（市田柿加工食品展示・即売会）
期日：１月 22 日（金）～23 日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店
出展：10 団体
②販売促進事業（出展事業）
・いいだ人形劇フェスタ 2015
期日：８月４日（火）～９日（日）　会場：飯田中央公園
・やまなしリニアフェス 2015
期日：８月 21 日（土）～22 日（日）　会場：山梨県立リニア見学センター
期日：９月 25 日（金）～26 日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店
・備後ものづくりフェア、地場産業振興センター交流展
期日：10 月３日（土）～４日（日）　会場：福山市ものづくり交流館
・第 61 回風越登山マラソン大会
期日：10 月 12 日（月）　会場：今宮球場
・飯田丘のまちフェステバル
期日：11 月３日（火）　会場：りんご並木
・南信州ご当地キャラ大集合
期日：11 月７日（土）　会場：ピアゴ飯田駅前店
・デザインプラザ HOFU じばさんフェア 2015
期日：11 月７日（土）～８日（日）
会場：（公財）山口・防府地域工芸・地場産業振興センター
・和歌山地場産フェア
期日：11 月 21 日（土）～22 日（日）会場：和歌山地域地場産業振興センター
・飯田お練りまつり
吉鍋（よしなべ）を提供しました。
期日：３月 26 日（土）～27 日（日）　会場：飯田中央公園

（４）地域ブランド構築事業
①販路開拓支援（海外）
飯田市の海外チャレンジ事業と連携し、海外における販売チャネル開拓のため、香港における南信州果実のＰＲ及びマーケット調査を行いました。
○香港「南信州果実のＰＲ及びマーケット調査の実施」
期日：２月 17 日（水）～２月 23 日（火）
②ブランド化の活動支援
○菓子ブランド化
飯田のお菓子の魅力を広く紹介いただくため飯田市産業親善大使（愛称：飯田菓子大使）に委嘱された、飯田市出身の演歌歌手「小沢あきこ」氏のブログ等で飯田のお菓子を周知いただくとともに、当地域で開催された全国半生菓子協会の総会等で菓子の普及の取り組みをご紹介いただきました。また、昨年度に引き続き桜の開花時期にあわせて「南信州桜のお菓子」パンフレットを作成しＰＲを行

い、販売促進を図りました。

○飯田水引

小椋ケンイチ飯田市産業親善大使（愛称：飯田水引大使・市田柿大使）、飯田水引協同組合、法政大学等との連携による飯田水引コンテストを行いました。飯田水引コンテストの周知、飯田水引の魅力を発信するため、飯田水引協同組合と連携し追手町小学校、丸山小学校、下伊那農業高等学校で出前講座や、東京品川でワークショップを開催し、伝統工芸の普及促進を図りました。

○つぶほまれ栽培・加工研究会の取り組み

民間企業、大学、県、市町村、関係団体等各界各層が一体となり、南信州地域での大豆つぶほまれの栽培、加工、販売のネットワークによる、南信州ブランドの構築を目的とした研究会において、品質向上を目指し巡回指導、集団指導等を行い、普及促進を図りました。

○新たな事業グループへの支援

ブランド向上に向けてチャレンジ意欲のある皮革グループＬＩＣＳ等の取り組みを支援しました。イベントへの出店を行い、販売促進を図りました。

③南信州ブランド確立への取り組み

この地域に戻る・来る・残る若者を増やすために、世界に誇れる南信州の地域要因（自然、文化・伝統、ゆとりのある生活様式等）の写真と新たな地域産業創造へのメッセージを綴った書籍を発刊し、進路講和や企業内人材育成のテキストとしての活用を図りました。

また、南信州地域ブランド推進のため統一した地域イメージの商品の販売や、経済産業省のクールジャパンによる地域活性化推進サイト「NIPPON QUEST」への情報投稿を行い、情報の発信を図りました。

○私の好きな伊那谷の発刊

○南信州ＰＲ用オリジナル紙袋の販売

○「南信州・飯田」風景写真集第３版の販売。

④農商工連携の取り組み

○農産物の鮮度維持装置活用支援

部品製造業者とみなみ信州農業協同組合の連携により、市田柿の鮮度維持装置活用する取り組みを支援しました。

○きのこ液体種菌接種機活用支援

きのこ栽培業者等への機器販路拡大の取り組みを支援しました。

○無人鳥獣撃退ロボット活用支援

鳥獣撃退ロボットの動作実験等販売に向けた取り組みを支援しました。

（５）地場産業活性化事業

①各種地場産業団体、グループへの活動支援

各種地場産業団体等の活動を推進するため必要な支援を行いました。

②企業体質強化事業

○連携相談事業

クラスターマネージャー、工業技術センター長、インキュベーションマネ

ージャー、信州大学飯伊産学官連携室コーディネーター等が連携し、総合的な人的支援体制をとりながら、企業からの相談に対応し、課題解決に向け継続的な支援を行いました。

（６）情報収集提供事業

主にE-mail、Faxを利用し、有益な各種情報を発信しました。

３．人材養成事業

（１）飯田産業技術大学

27年度も従業員の育成に力を注ぎ、企業力のアップを図る動きがありました。

企業から要望が多かった講座を中心に31講座を実施し、日数では106日、参加企業は176社、全受講者数は延べ881人が参加しました。特に、在職者向けの長野県スキルアップ講座との共催で実施している普通旋盤・フライス盤を使用した加工技術初級講座や測定基礎コースは、新入社員も含め参加者数が多く、数回実施することができました。また、特別講座において、信州大学による「特別な課程」１年コースを開講しました。

会　　場：(公財)南信州・飯田産業センター及び長野県飯田技術専門校

〇技術講座（計39日間・延べ受講者数277人）

測定基礎コース/3次元CAD「SolidWorks」入門・初級・中級・上級コース/機械加工初級（手仕上げ加工）コース／機械加工実践コース/普通旋盤・フライス盤初級コース／シーケンス制御コース／技能検定対策コース／切削機械操作の基礎コース

〇経営管理講座（計20日間・延べ受講者数255人）

品質管理入門・初・中・上級コース/パソコンによる品質管理初級コース／ISO9001内部監査員養成コース/ISO14001内部監査員養成コース/JISQ9100内部監査員養成コース

〇特別講座（計49日間・延べ受講者349人）

三次元CAD「SolidWorks2012」初級（飯田コアカレッジ出前講座）／熱可塑性CFRPシートのプレス加工/人間の失敗メカニズムと失敗を防ぐリーダーの役割／信州大学「特別な課程」１年コース

（２）地域企業人材共同育成事業（国の委託事業）（平成26年度補正予算）

AI(AerospceIIDA)の中小企業及び多摩川ﾊﾟｰﾂﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ株式会社等を対象に、多摩川精機株式会社及び当センターが整備した特殊工程技術機能を有する航空宇宙産業クラスター拠点工場を実習の場として利用し、非破壊検査で実績のある外部講師のサポートを受けながら、「地域人材育成コンソーシアム」内における人材育成を目的とした「出向」及び「OFF-JT 研修」を実施しました。

①人材育成を目的とした他社への「出向」による研修の実施

地域航空機産業におけるリーディングカンパニーである多摩川精機株式会社の協力の下、実際の製品を事例として非破壊検査の手法を実習形式で習得し、AI 参加企業及び多摩川ﾊﾟｰﾂﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ株式会社の専門的人材育成を行いました。

１）研修テーマ：非破壊検査技術（①浸透探傷試験（PT)、②Ｘ線探傷試験（RT)、③磁粉探傷試験（MT)、④超音波探傷試験（UT）の４試験の技術の習得）
２）参加企業：㈱NEXAS、多摩川ﾊﾟｰﾂﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ㈱、㈲ﾕｰｽﾞﾃｯｸの３社
３）受入企業：多摩川精機㈱
４）研修方法：人材育成を目的とし、㈱NEXAS 及び多摩川ﾊﾟｰﾂﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ㈱、㈲ﾕｰｽﾞﾃｯｸから実際に多摩川精機㈱に出向し、外部講師による指導を受けながら、試験機等を使用し、実製品にて非破壊検査技術を習得しました。
５）研修成果：非破壊試験技術者資格試験を受験し、UT ﾚﾍﾞﾙ３、ﾚﾍﾞﾙ１、MT ﾚﾍﾞﾙ３、PT ﾚﾍﾞﾙ２に合格しました。
６）実施回数：①浸透探傷試験　：6 日間、42 時間（1 日当たり 7 時間）
②Ｘ線探傷試験　：6 日間、42 時間（1 日当たり 7 時間）
③磁粉探傷試験　：6 日間、42 時間（1 日当たり 7 時間）
④超音波探傷試験：6 日間、42 時間（1 日当たり 7 時間）
計　延べ 13 名　24 日間　計　168 時間

②OFF-JT 研修の共同企画・実施
座学をメインに、参加企業が非破壊検査技術に対する知識を習得する OFF-JT 研修を実施しました。
１）研修テーマ：非破壊検査技術（①浸透探傷試験（PT)、②Ｘ線探傷試験（RT)、③磁粉探傷試験（MT)、④超音波探傷験（UT）の４試験の知識の習得）
２）参加企業：多摩川精機㈱と AI に参画する中小企業の 10 社
３）研修方法：多摩川精機㈱を実習場所として、外部講師による講義と実習による非破壊検査技術研修を実施した。研修終了後、合同成果報告会を実施した。
４）実施回数：①浸透探傷試験　：1 日間（1 日当たり 7 時間）
②Ｘ線探傷試験　：1 日間（1 日当たり 7 時間）
③磁粉探傷試験　：1 日間（1 日当たり 7 時間）
④超音波探傷試験：1 日間（1 日当たり 7 時間）
⑤合同成果報告会：1 日間　3 時間
計　延べ 55 名　5 日間　計　31 時間

飯田産業技術大学特別講座

地域企業人材共同育成事業

（３）第 16 回ＥＭＣシンポジウム IIDA2015

EMCシンポジウムIIDA2015では、「次世代技術と最近のＥＭＣ規制の動向」について業界等で指導的な立場の方々の講演、また、講師の方々及び技術者間との情報交流会を行いました。シンポジウムの企画・運営は、地元企業が参加するEMC委員会が行いました。

テ ー マ：「次世代技術と最近の EMC 規制の動向」
期　　日：平成 27 年 10 月 22 日（木）～23 日（金）
会　　場：シルクホテル　2 階　錦の間
参加者数：110 人
講演内容：

基調講演:「電波利用の現状と今後の課題」　総務省　杉野　勲　氏
講演１：「2016 年スーパーハイビジョン試験放送に向けた設備開発状況」
日本放送協会 三谷公二　氏
講演２：「航空機内における電子機器の使用制限緩和の動向」
国立研究開発法人電子航法研究所　米本成人　氏
講演３：「電動車両に関する EMC 課題と対応」
株式会社本田技術研究所　細田正晴　氏
講演４:「イミュニティ規格の最新動向」　株式会社東陽テクニカ　中村哲也　氏
講演５：「欧州新指令への対応について」
インターテック・ジャパン株式会社　小瀬村英昭　氏
講演６：「医療機器の EMC の現状と今後の課題」
フクダ電子株式会社　平野　知　氏
講演７：「医療機器の EMC 国際規格の最新動向」
ＧＥヘルスケア・ジャパン株式会社　石黒信一　氏
講演８：「ＩＨ調理器、ワイヤレス給電からの放射磁界シミュレーションとグランドプレーンの影響」　パナソニック株式会社　山本竹志　氏

第16回ＥＭＣシンポジウムIIDA2015

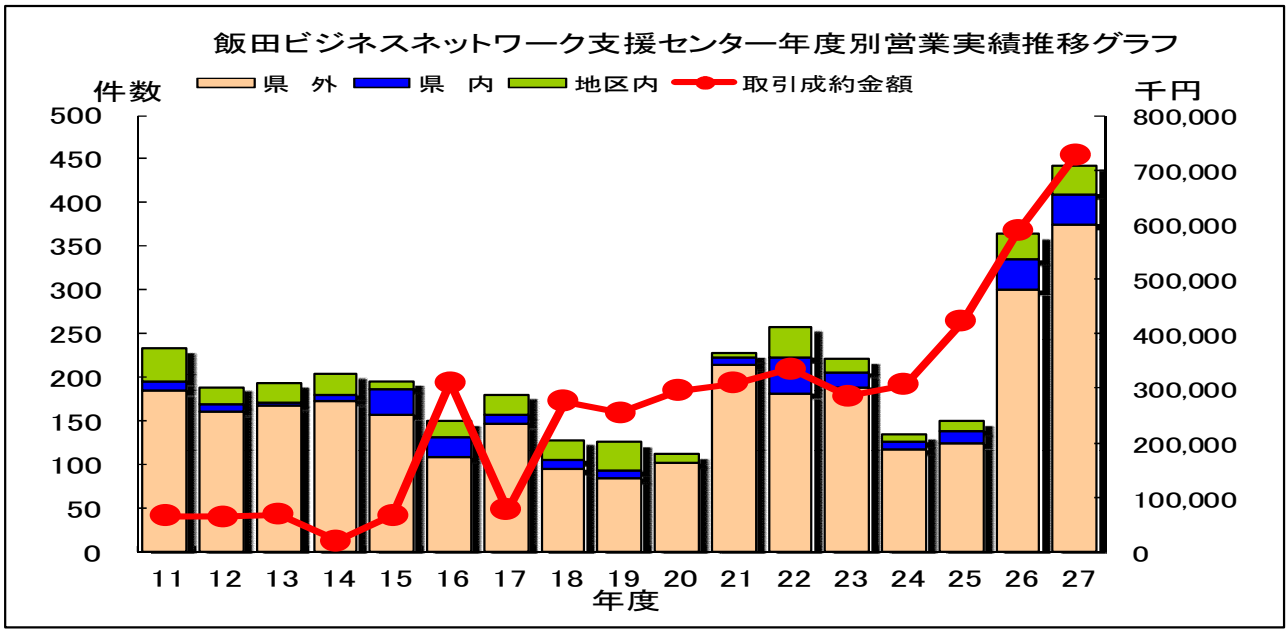
４．飯田ビジネスネットワーク支援センター

(1) 共同受発注事業

メッセナゴヤなど5展示会に飯田ビジネスネットワーク支援センター名で出展したほか、会員企業の出展する展示会や商談会にサポートでオーガナイザーも同行し、この地域の技術力等をアピールし、顧客の確保に努めました。また、ＢtoＢソーシングサイトやオープンイノベーション説明会などを積極的に活用し、新たなビジネスマッチング機会の拡大を図りました。昨年と比較して、引合件数、取引成約、成約金額ともに増加しました。成約金額の伸び率が大きいのは、機械メーカーとの省力化機械部品の成約金額の大きな受注が実現したことが要因として挙げられます。会員数も 100 社を超え、単独では取り扱えない案件や自社で取り扱えない案件についても、多様な業種が参画する強みを活かし会員相互間で共同して受注したり、引合情報を会員間で共有するなど、高付加価値な取引成約の拡大を目指します。

飯田ビジネスネットワーク支援センター年度別営業実績の推移

年度	取引成約金額(千円)	引合件数	県　外	県　内	地区内	取引成約	成約率
11	65, 844	233	184	12	37	20	8. 6%
12	64, 136	192	161	8	20	22	11. 5%
13	68, 208	193	168	3	22	25	13. 0%
14	19, 628	203	173	6	24	45	22. 2%
15	66, 684	195	157	30	8	40	20. 5%
16	310, 764	151	108	23	19	18	11. 9%
17	76, 558	181	147	10	23	28	15. 5%
18	275, 642	114	95	10	23	30	26. 3%
19	254, 294	126	85	8	33	16	12. 7%
20	295, 453	112	102	0	10	38	33. 9%
21	308, 326	222	215	7	6	36	16. 2%
22	334, 768	223	181	42	35	52	23. 3%
23	284, 735	205	189	16	16	45	22. 0%
24	306, 641	126	117	9	8	47	37. 3%
25	442, 773	139	124	15	11	54	38. 8%
26	587, 390	335	300	35	29	41	12. 2%
27	726, 490	410	375	35	32	42	10. 3%



【オープンイノベーション】（書類選考不採用は除く）

ＰＪ名称	売上見込	連携先 等	進捗状況
濃縮洗剤のパッケージ技術	未定	業務用洗剤メーカー	商談中
記念品、衣服、エコな生活用品・雑貨等	1,000～1 万枚	大手デパート	商談中
人の重さに耐えうるリンク機構	未定	大手ベットメーカー	商談中
ハンディアロマディフューザー	未定	大手飲料メーカー	成約
導通性ある素材を用いたヘルスケア製品	80～100 万個/月	ウエラブルメーカー	商談中
ドローン向け静音小型モーター	未定	宇宙産業関連企業	商談中
ノータッチ式ハンドディスペンサー	1,000 万円	洗剤メーカー	商談中

売上見込の大きい案件もあり、何段階かの選考を経て成約に繋げるため、顧客の要求に適合した企画を提案する技術向上への支援を継続して行います。

(2) 飯田下伊那企業連携製品開発事業

会員企業ネットワークを強化することで、「飯田下伊那独自の製品」を生み出していくための取り組みを行いました。

【主な開発案件】

ＰＪ名称		連携先 等
光線療法歯ブラシ	新規	歯科医師研修会事務局
GPS を利用した海上測位装置	新規	情報通信業者
面発光照明装置	新規	高速道路関連商社
ヘルメット用通信装置	新規	高速道路関連商社
オープンクロスフロー水車	新規	信州大学
水溶性包装容器	新規	大手洗剤メーカー
機能説明用拡大電子部品模型	新規	企画企業
発電機パワコン間マッチング装置	継続	自動車メーカー
市田柿熟度判定器	継続	長野県南信農業試験場
ガイドベーン付プロペラ水車	継続	信州大学
グッドデザイン賞受賞光学顕微鏡	継続	長野県工業技術総合センター
青銅鋳物ハンドベル	継続	日本ハンドベル連盟

販売に繋がっている案件から、試作を終え、評価を行いながら市販に向けた改良を行うもの、現在開発中のものなど、それぞれの進捗状況は異なりますが、異業種との連携による製品開発の取り組みは、次年度も継続して行います。

また、より付加価値の高い受注を受けるために、営業力向上や開発スキルの向上による顧客のニーズにマッチした提案が必要であるため、オーガナイザーをはじめ産学官金等の連携を強める取り組みも強化します。

５．工業技術センター・ＥＭＣセンター運営事業

（１）工業技術センター

27年度は、前年度に対し地域内・地域外ともの利用件数は減少しましたが、測定料収入は増加しました。前年度と比較して、精密部品関係は減少し、電気分野、食品分野、ゲージ類の校正関係が増加しました。

しかし、収入には結び付かないものの、中核支援機関としての役割である新製品開発のための分析や技術相談には積極的に応じることができました。また、公的機関の役割である測定機器や電気計測器の校正業務においては、試験成績書・校正証明書の発行を積極的に行いました。

工業技術センターでは、校正業務だけでなく、不具合原因調査や事故解析、微量成分、有機物、樹脂などの定性、定量分析、金属・樹脂等の破断解析、さらには臭気やガス成分等と多岐にわたる分析・解析を行っています。

最近の傾向として、短期間に試験評価を求められる緊急を要する案件が多く、内容的には、金属・有機物・樹脂などの異物や付着物の定性・定量分析、金属・樹脂製品等の破断解析、さらに臭気やガス成分等の分析依頼があり、機械金属分野だけでなく、電気分野、混入異物や変色等といった食品分野からの依頼も多くなっています。これらは走査型電子顕微鏡＆Ｘ線元素分析装置、ＦＴ－ＩＲ(フーリエ変換赤外分光光度計)、ＧＣ／ＭＳ(ガスクロマトグラフ質量分析計)等で分析し、原因究明及び対策を考える上で必要な評価を行うことに重点を置いています。

特に、利用頻度の高い分析・解析分野においては、分析・解析精度の向上を図り、更に、利用企業の利便性を高め、利用しやすいセンターを目指しています。

平成26年度地域オープンイノベーション促進事業により、航空宇宙産業クラスター拠点工場内に高温クリープ試験機を導入しました。航空機関係の規格ASTMだけでなく、300℃～900℃の温度を加えながらJIS・ISOの試験も可能となりました。

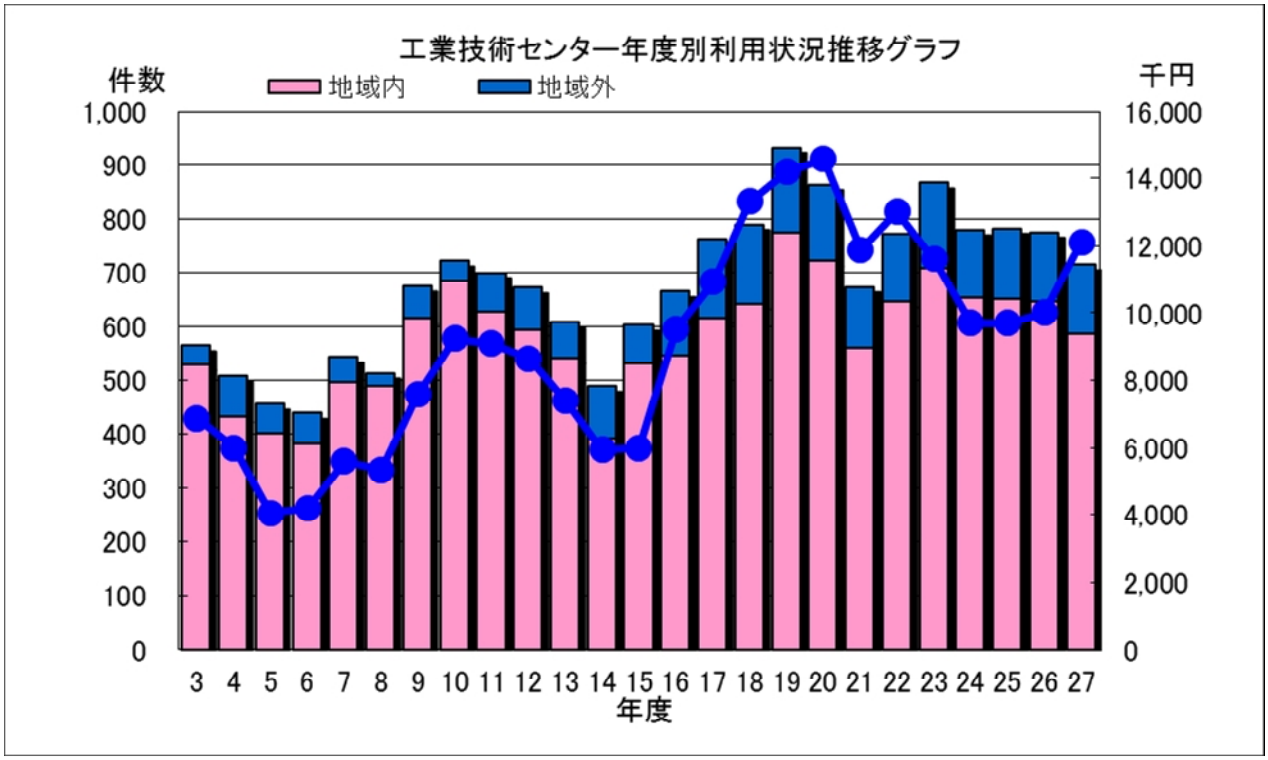
また、「知の拠点」整備の支援機関の機能拡充・強化として平成２７年度内閣府地方創生先行型・上乗せ交付金により、工業技術センターの三次元測定器と真円度測定器を更新しました。新規に高速液体クロマトグラフ質量分析装置、小型超低温恒温器・冷熱衝撃試験機、引張・圧縮・曲げ試験機を導入しました。

これらの機器の更新や新規機器の導入により、測定の精度が向上したことと今まで出来なかった試験が可能になったことから、積極的に企業へのＰＲを行い、機器貸出だけでなく、依頼試験も行っていきます。

高温クリープ試験機

高速液体クロマトグラフ質量分析装置

引張・圧縮・曲げ試験機



工業技術センター年度別利用状況の推移

年度	地域内	地域外	測定料収入(円)	年度	地域内	地域外	測定料収入(円)
4	432	76	5, 999, 244	16	547	117	9, 530, 230
5	400	55	4, 058, 817	17	616	147	10, 926, 385
6	382	56	4, 194, 572	18	642	147	13, 310, 805
7	496	47	5, 593, 445	19	775	157	14, 192, 410
8	488	25	5, 354, 318	20	721	142	14, 562, 665
9	614	60	7, 581, 930	21	561	112	11, 889, 370
10	685	36	9, 239, 201	22	645	128	13, 013, 615
11	626	73	9, 101, 935	23	708	156	11, 607, 660
12	593	78	8, 664, 980	24	653	123	9, 707, 550
13	542	65	7, 408, 560	25	650	132	9, 709, 030
14	392	96	5, 944, 465	26	647	128	10, 014, 401
15	531	71	6, 004, 105	27	587	127	12, 116, 452

（２）ＥＭＣセンター

27年度は、前年度と比較すると、利用件数が若干減少、測定使用料も減少しました。地域別では、県外の利用件数は増えましたが、飯田下伊那の利用件数が減少しました。前年度と比較すると、防衛関係の利用が大きく減少したため、測定使用料に影響したと思われます。

しかし、一般電気製品、自動車関係、その他の件数は増加しました。試験内容は、電気用品安全法による電動工具、ＬＥＤ照明器具の放射エミッション試験（製品から放射される電磁波ノイズの量を測定する）、医療機器・自動車関係の放射イミュニティ試験（製品に電磁波を照射して感受性を評価する）が多くありました。

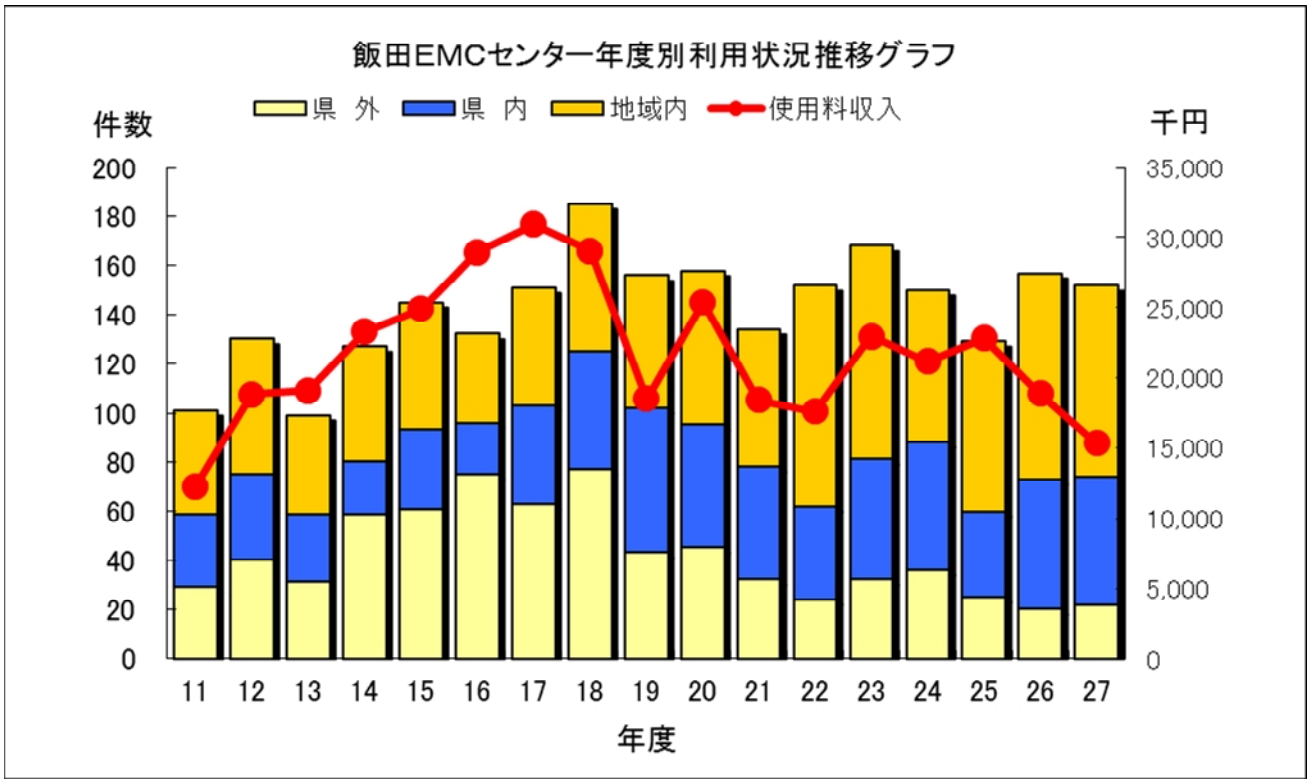
平成27年度内閣府地方創生先行型・上乗せ交付金により、高周波パワーアンプシステムを更新し、耐ノイズ試験装置（RTCA-DO160対応）を新規導入しました。

これらの機器の更新や新規機器の導入により、出力パワーが増加したことと今まで出来なかった試験（民間航空機）が可能になったことから、積極的に企業へのＰＲを行い、自主測定だけでなく、依頼試験も行っていきます。

現在、民間航空機に対する試験への対応は出来つつありますが、航空機以外で特に３ｍ電波暗室では対応できない分野への対応を目指して新たなセンターの方向性について検討しています。今後は、使用頻度の高い試験分野へ機能を特化させつつ、新たな分野の利用促進を図っていきます。

高周波パワーアンプ

耐ノイズ試験装置（RTCA－DO160対応）



飯田ＥＭＣセンター年度別利用状況の推移

年度	飯伊	県内	県外	合計	使用料収入(円)
12	55	35	40	130	18,835,613
13	40	28	31	99	19,115,219
14	47	21	59	127	23,281,082
15	52	32	61	145	24,908,820
16	36	21	75	132	28,984,704
17	48	40	63	151	30,911,757
18	60	48	77	185	29,049,161
19	54	59	43	156	18,544,548
20	63	50	45	158	25,388,460
21	56	46	32	134	18,430,305
22	90	38	24	152	17,618,425
23	87	49	32	168	22,936,222
24	62	52	36	150	21,157,010
25	69	35	25	129	22,795,505
26	84	53	20	157	18,882,921
27	78	52	22	152	15,347,747

６．新産業クラスター事業

支援体制を強化するために、クラスターマネージャーやコーディネーターを配置して、新産業クラスター形成をめざして、分野ごとの事業を推進しました。

（１）航空宇宙プロジェクト活動支援

①プロジェクト活動推進 全体会議(6回／年)

②ワーキングチーム活動（111回／年)

ＷＴ１（共同受注チーム） 32回、ＷＴ２（品質保証チーム） 5回

ＷＴ３（ソフト研究チーム）12回、ＷＴ４（生産技術チーム）62回

③共同顧客開拓及び技術補完企業開拓（43回)

④一貫生産体制の強化支援

専門コーディネーターによる生産技術・コストダウンのコンサルティング指導（WT4活動のうち44回)

⑤国内外展示会出展等による販路開拓事業

・東京エアロスペースシンポジウム2015 (10/14～ 10/16)

・TECH Biz EXPO2015 (11/18～ 11/20)

・シンガポールエアショー2016 (２/16～ ２/21)

⑥炭素繊維複合材研究会の開催（伊那テクノバレー共催事業)

・炭素繊維複合材技術セミナー (８/28)

⑦「アジアNo.１航空宇宙産業クラスター形成特区」の変更及び継続申請支援

飯田下伊那35事業所指定 特区事業計画認定20事業所・５金融機関が認定

⑧航空宇宙産業クラスター拠点支援事業

（２）メディカルバイオクラスターの運営支援

①医療機器系・食品系分科会（14回/年）

②シンポジウムの開催（１回/年）

③国内展示会出展等によるPR

・長野県ものづくり企業と医療機器メーカーとの展示交流会 in 本郷（３）（９/17）

④他地域関連団体等の連携

・長野県次世代ヘルスケア産業協議会（４回/年）

・伊那谷アグリイノベーション推進機構（５回/年）

・長野県大学地域連携事業「食と健康」推進委員会（１回/年）

こうや豆腐を１枚分練り込んだ粉豆腐麺の販売支援

（３）食品産業クラスターの活動形成支援

①南信州食品産業協議会を中心とする「リニア時代を見据えた食品産業づくり研究会」の支援（フードファクトリーパーク、原材料調達等、人材育成）

・研究会・講演会の開催（３回/年）

・台湾における飯田物産展における可能性調査（２/11～14）

（４）環境産業の活動支援

①マイクロ水力発電システムの開発と実証実験支援（環境技術開発センター入居企業）

②伊那谷地域経済研究会（LNG）への参加（４回／年）

③中部電力株式会社、信州ガス株式会社との意見交換会（２回／年）

（５）製品（技術）開発等に関する活動支援

①専門家の派遣とアドバイス支援

②地域や行政課題等の情報を収集し、支援センターと連携し企業へ提供

③各種補助金等の説明及び相談会の開催

７．拠点工場管理運営事業

地域内全体の実施可能な工程幅を広げ、地域内一貫生産体制を確立するため平成２６年度に整備した宇宙産業クラスター拠点工場の管理運営を行いました。入居企業と密な連携を取る中で、効果的な運用を目指しております。また、表面処理工場棟内には、工業技術センターが環境試験機器を整備し、塩水噴霧試験を行いました。

入居企業の多摩川パーツマニュファクチャリング（株）は、平成26年6月に国際戦略総合特区「アジア№1航空宇宙産業クラスター形成特区」の認定を受け、現在本格的に稼働しています。

整備時の長期借入金の返済については、入居企業から負担いただく家賃を原資としました。

また、本年度についても昨年度と同様、国・関係機関をはじめ多くの視察が訪れ、関心の高さが窺われました。

（１）工場の概要と入居企業

①熱処理工場棟

特殊工程技術（熱処理・非破壊検査）及び共同企業体の営業スペースを有する工場

延床面積　1,041.52㎡

事業費　325,972,500円

入居企業　多摩川パーツマニュファクチャリング(株)

エアロスペース飯田

②表面処理工場棟

特殊工程技術（表面処理）及び工業技術センター検査部門を有する工場

延床面積　1,273㎡

事業費　234、882,300円

入居企業（Ａ）多摩川パーツマニュファクチャリング(株)

（Ｂ）多摩川パーツマニュファクチャリング(株)

（公財）南信州・飯田産業センター工業技術センター

（２）運営に関する費用

拠点工場整備に係る資金調達は、自己資金に加えて、国県補助金、飯田市負担金及び長期借入により整備を進めました。借入金の返済原資は工場家賃収入を充てております。

長期借入金

借入金額　210,000,000円

返済期間　２０年元金均等

利率　　1.51（固定）

初年度（H27）返済額　13,597,832円

家賃収入として、24,033,192円（年額）の収入がありました。

８．三遠南信・広域連携事業

三遠南信地域の連携強化のため、三遠南信クラスター推進会議を継続するとともに、４分野５つのテーマについての検討を重ねながら各地域で事業を進めました。

ここ最近では、商談会や展示会に参加することにより、実際の取引に至るケースも増えており、現在、他地域との広域連携が活発化しています。

（１）三遠南信地域ネットワーク強化プロジェクト（各クラスタープロジェクト共通）

（２）次世代輸送用機器産業クラスタープロジェクト

・New湖西テクノフェア2015　　(12/4～ 12/5)

（３）光・電子産業クラスタープロジェクト（浜松地域）

（４）健康医療産業クラスタープロジェクト（浜松地域）

（５）新農業クラスタープロジェクト（食農産業クラスター推進事業）（豊橋地域）

（６）航空宇宙産業クラスタープロジェクト

①展示会事業

・TECH Biz EXPO2015　　(11/18～ 11/20)

②国内Tier2商談及び販路開拓事業

・関係機関訪問（随時）

③広域パートナー受注体制の構築

・SOLAE（浜松クラスター）との交流、マッチング

・アジア№.１航空宇宙産業クラスター形成特区指定企業との交流事業

・他地域の航空宇宙産業クラスターとの視察実施（東北、石川）

・国内航空機産業クラスターフォーラムへの参加　(12/15～ 12/16)

９．南信州産業活性化事業

企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律(企業立地促進法(平成 19 年６月 11 日施行)に基づく、産業集積の形成または産業集積の活性化に関する基本計画「南信州地域産業活性化基本計画」に基づき関係市町村による立地に関する会議・研修を行いました。

平成 27 年度南信州産業活性化協議会総会

日時	平成 27 年６月 17 日
場所	長野県飯田合同庁舎
参加者	飯田下伊那の市町村長、長野県下伊那地方事務所長、(公財）南信州・飯田産業センター理事長、長野県商工会連合会南信州支部長
内容	・会長選任 ・平成 26 年度事業報告及び会計報告 ・平成 27 年度事業計画案及び予算案 ・規約改正（加盟団体名称変更による）

第１回幹事会・研修会

日時	平成 27 年５月 18 日
場所	（公財）南信州・飯田産業センター２階　学習室
参加者	市町村の担当者 13 名、下伊那地方事務所
内容	・研修「南信州地域における地方創生について」 講師：(一財）日本立地センター　産業立地部次長　藤田成裕　氏 内容：改正地域再生法に基づく企業の本社機能移転等の促進

	地域再生計画の作成について ・情報交換

第 2 回幹事会・研修会

日時	平成 27 年８月 25 日
場所	豊丘村役場２階　会議室、企業（松川町、豊丘村）
参加者	市町村の担当者 12 名、下伊那地方事務所、長野県産業立地・経営支援課
内容	・産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」について（長野県） ・情報交換 ・研修会（管内企業視察） ①株式会社　コシブ精密（松川町） ②横浜ゴム　株式会社（豊丘村）

10．知の産業の集積拠点研究事業

(1)　知の拠点整備に係る検討

産業界の皆様のご意見を伺いながら、広域連合事務局、飯田市、当センターを含めた旧飯田工業高校後利用検討会議（7回）を開催する中で、現センターの機能を旧飯田工業高校跡地にどう移転し、さらに機能面で充実を図るかについて具体的な検討を行うとともに、その他の機能について改修の予算措置も含め、以下のような具体的な機能の検討を行いました。

平成28年3月末現在までに検討中の知の拠点に関する主な追加予定機能

ア　南信州・飯田産業センター

（ア）　インキュベート機能

（イ）　食品企業研究室

（ウ）　共創の場（様々な知・人材・情報の交わる場、ネットワークの拠点）

イ　大学等の高等教育機関の機能

（ア）　信州大学航空機システム共同研究講座

（イ）　信州大学南信州キャンパス

（ウ）　大学サテライト研究室

（エ）　高等教育機関（デザイン系大学院大学）

ウ　歴史研究所

飯田市歴史研究所・地域づくりアーカイブ

(2)「航空宇宙産業を先導役として地域産業の将来を考える」シンポジウム

今後、地方創生に向けて、活力溢れる地域経済を実現していくためには、航空宇宙産業の取組みを先導役として、広く集積している地域産業の高付加価値化を図り、企業の成長と地域産業の競争力を高めていくことが必要であることから、当該シンポジウムは、航空宇宙産業を先導役として、地域産業を進化させイノベーションを起こすための取組みについて、知の集積を活用した航空宇宙産業クラスターの海外における成功事例や国の航空宇宙産業政策について情報共有し、広く議論を行うことを目的と

して開催しました。

シンポジウムの企画・運営は、南信州広域連合事務局と当センターが一体となって行いました。

テ ー マ：「航空宇宙産業を先導役として地域産業の将来を考える」シンポジウム
期　　日：平成 27 年 9 月 19 日（土）
会　　場：飯田女子短期大学　講堂
参加者数：503 人
内訳：来賓登壇者等　16 人　市町村、広域連合関係者　172 人
一般参加者　315 人（内　教育機関 14 人　金融機関 47 人　県外参加 16 人）

講演内容：

(1) 基調講演Ⅰ　「ケベック州における航空宇宙産業のねらい、取り組みの概要と成果について」 CRIAQ 副社長・工学博士　Alain　Aubertin 様

(2) 基調講演Ⅱ　「今後の我が国航空機産業について」
経済産業省大臣官房参事官　飯田陽一様

(3) パネルディスカッション
テーマ「リニア時代を見据え、航空機産業をモデルとした地域産業の振興について」
コーディネーター　萩本範文氏（南信州・飯田産業センター専務理事）
パネリスト　小澤吉則氏（長野経済研究所調査部長）
飯田陽一氏（経済産業省大臣官房参事官）
三浦義正氏（信州大学副学長）
Alain Aubertin 氏（工学博士・CRIAQ 副社長）
牧野光朗氏（南信州広域連合長、南信州・飯田産業センター理事長）

「航空宇宙産業を先導役として地域産業の将来を考える」シンポジウムの様子

１１．その他

（１）デザイン系大学院大学の設置の検討について

当地域の悲願であった高等教育機関設置に関して、南信州広域連合での検討結果を受ける中で、デザイン系大学院大学の設置に向けた調査研究に取り組んでいます。この取り組みに賛同いただいた有識者及び地元企業等により、平成26年度に「デザイン系大学院大学の設置を考える会」が設立され、その方向性について議論を重ねてきました。

会の活動は、飯田市、南信州広域連合及び南信州・飯田産業センター職員によるワーキンググループが情報収集やロードマップ策定を担当し、「デザイン系大学院大学の設置を考える会」と情報共有をしながらデザインの可能性や人材育成の必要性について引き続き検討中ですが、産業界の意見も踏まえながら特定の専門分野に特化したデザイン系大学院大学設置の実現を目指しています。